

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2025年 第6週（2月3日～2月9日）

今週のコメント

～RSウイルス感染症～ 咳エチケット、手洗いが重要

定点把握感染症

「RSウイルス感染症 増加」

第6週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は2,229例であり、前週比0.5%増であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱、突発性発しんの順で、定点あたり報告数はそれぞれ7.28、1.76、1.51、0.32、0.22である。

感染性胃腸炎の報告数は前週から6例増加の1,406例で、南河内10.81、中河内9.37、大阪市南部8.56、泉州8.40、豊能7.50であった。

RSウイルス感染症は2%増の339例で、北河内2.92、泉州2.70、南河内2.63である。

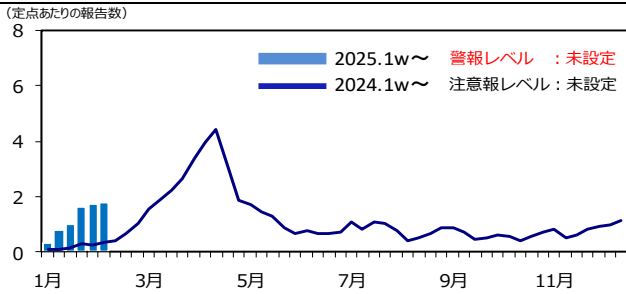
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は前週と同数の292例で、大阪市南部2.89、泉州2.15、堺市2.11であった。

咽頭結膜熱は56%増の61例で、大阪市北部0.92、南河内0.56、泉州0.50である。

インフルエンザは30%減の706例で、定点あたり報告数は2.35であった。大阪市西部3.13、北河内2.98、堺市2.86、中河内2.80、南河内2.46である。

新型コロナウイルス感染症は7%減の1,201例で、定点あたり報告数は3.99であった。南河内5.79、堺市5.14、中河内 4.63、北河内4.61、泉州4.15である。

RSウイルス感染症



感染性胃腸炎

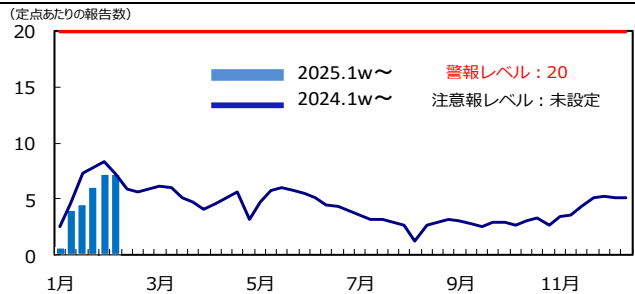


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2025年 第6週2月3日～2月9日）

第6週の順位	第5週の順位	感染症	2025年 第6週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2024年 第6週の 定点あたり 報告数	2025年第6週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	7.28	増減なし	7.28	1歳,10-14歳_12%
2	2	RSウイルス感染症	1.76	2%増	0.34	1歳未満_29%
3	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.51	増減なし	4.28	10-14歳_22%
4	6	咽頭結膜熱	0.32	56%増	0.52	2歳_26%
5	7	突発性発しん	0.22	19%増	0.14	1歳_56%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	2.35	30%減	29.56	10-14歳_22%
参考		新型コロナウイルス感染症 (COVID-19定点報告疾患)	3.99	7%減	7.82	10-19歳_19%

詳細はリンク先の『新型コロナウイルス感染症患者の発生状況について(大阪府)』の情報をご覧ください。

詳細はリンク先の『新型コロナウイルス感染症(大阪府感染症情報センター)』の情報をご覧ください。

突発性発しんについては、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。

第6週のコメント

～百日咳～ 生後2か月からの予防接種が重要

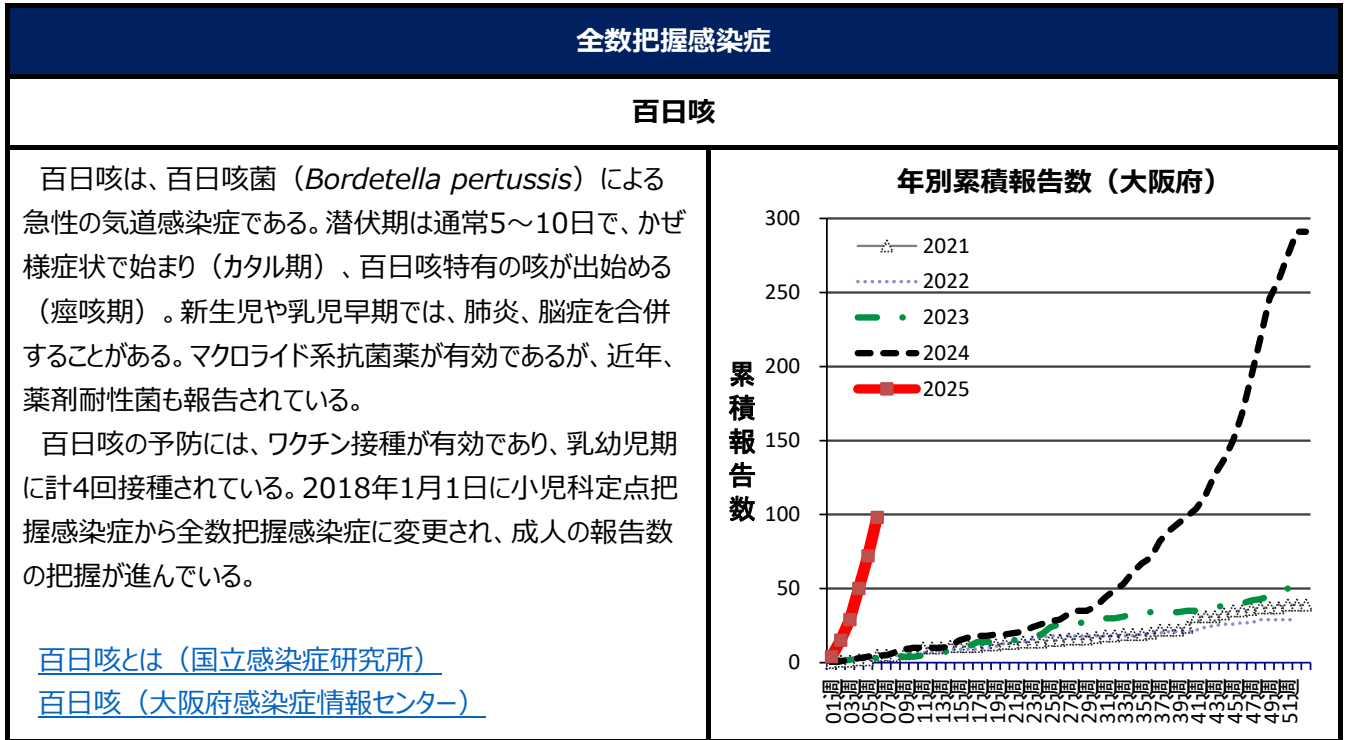


表 2. 大阪府全数報告数（2025年 第6週2月3日～2月9日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
 （報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。）

	疾患名 () 内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報 告 数	豊 能	三 島	北 河 内	中 河 内	南 河 内	堺 市	泉 州	大 阪 市	府 内 累 積
											報 告 数
3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1		1							6
4 類感染症	レジオネラ症（肺炎型）	1					1				11
5 類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	2								2	11
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	1							1	25
	侵襲性肺炎球菌感染症	6			2		1		1	2	64
	水痘（入院例）	1				1					2
	梅毒	6								6	155
	百日咳	26		1	5	2	2	1	6	9	98
	風しん	1	1								1
結核 (2024年12月分)	結核 新登録患者数：73名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 23名) (府内累積報告数 1,118名、内 肺・喀痰塗抹陽性 423名)										

(2025年2月11日 集計分)